

日本産学フォーラム リベラルアーツ企業研修会 第6回講座

市場原理と共感
ー 経済学が辿ってきた道ー

令和元年12月10日

堂目 卓生

大阪大学総長補佐

社会ソリューションイニシアティブ長

大学院経済学研究科教授

1

経済学者が構想したさまざまな社会

2

economy とは

eco-nomy (英語)



oikos nomos (ギリシャ語)



家(生活圏) 法



同じ家(生活圏)に住む人びとの命を維持する
ために限られた資源を配分するルール

3

経済とは

経世 済民 (中国語)



経 済 (日本語)



民を(貧困の)苦しみから救い、世を治める

4

アダム・スミスの時代と生涯



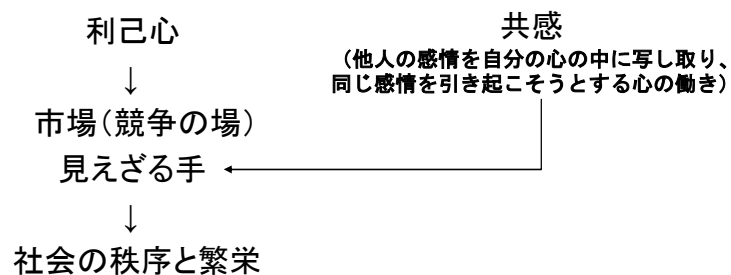
スミスの時代

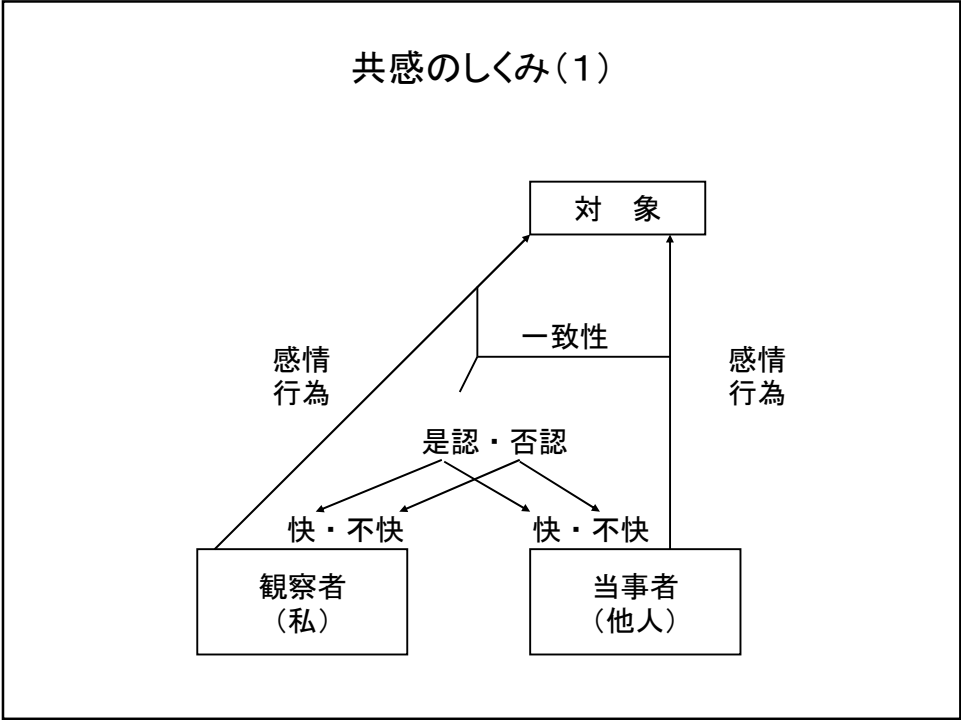
1688 名誉革命
 1701 スペイン継承戦争(ー1713)
 1707 スコットランドの合邦
 1740 オーストリア継承戦争(ー1748)
 1744 フランスと植民地戦争を始める
 1745 ジャコバイトの反乱
 1756 英仏七年戦争(ー1763)
 1763 フランスからカナダを割譲
 1764 ジェニ, 紡績機を発明
 1765 ワット, 蒸気機関を発明
 1775 アメリカ独立戦争勃発
 1776 アメリカ独立宣言
 1783 アメリカの独立を承認
 1789 フランス革命勃発

スミスの生涯

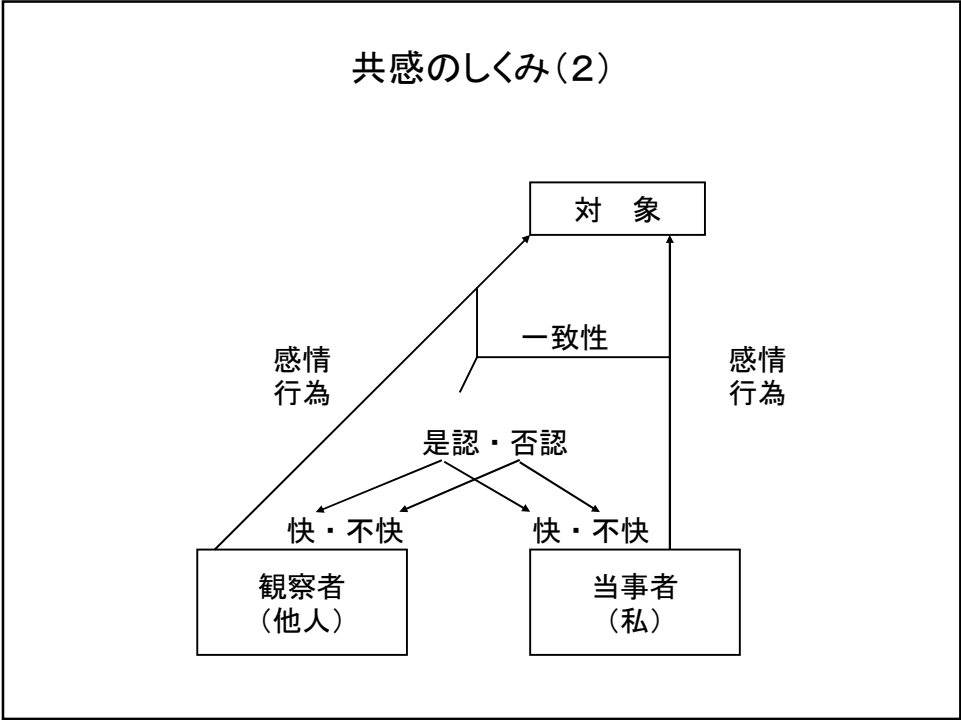
1723 税関吏の次男として生まれる
 1737 グラスゴー大学に入学
 1740 オックスフォードに学ぶ
 1751 グラスゴー大学の論理学教授
 1759 『道徳感情論』を出版
 1763 グラスゴー大学を退職。貴族の家庭教師となり, ヨーロッパを旅行
 1766 イギリスに帰国
 1776 『国富論』を出版
 1778 スコットランド関税委員に就任
 1790 没す

スミスの通俗的イメージと真意



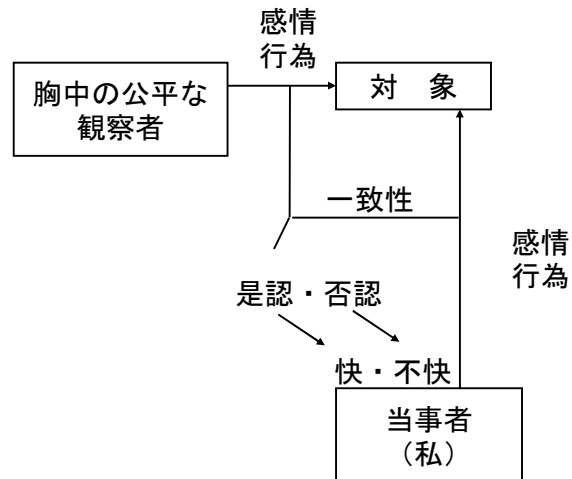


7



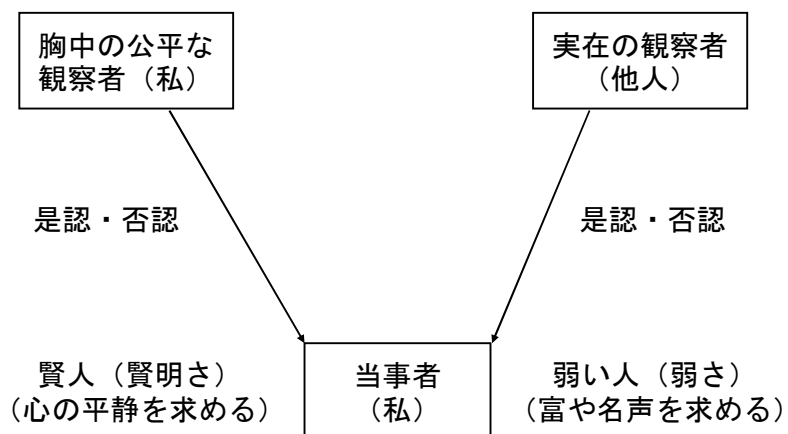
8

共感のしくみ(3)



9

人間の賢明さと弱さ



10

一般的諸規則

(1) 胸中の公平な観察者が、処罰(または非難)に値すると判断する、
すべての行為は回避されなければならない

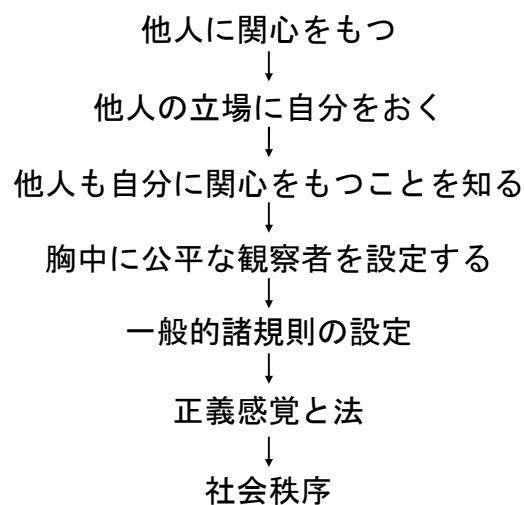
→ 正義→法→社会秩序

(2) 胸中の公平な観察者が、報償(または称賛)に値すると判断する、
すべての行為をするためのあらゆる機会が求められなければならない

→ 慈恵

11

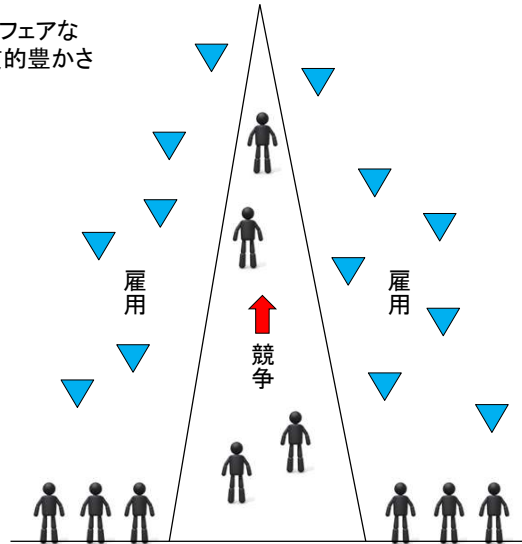
社会秩序を導く人間本性



12

スミスが構想した社会

共感にもとづいたフェアな
競争を通じて物質的豊かさを
追求する社会



13

スミスが残した課題

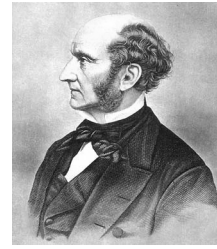
- (1) 競争に参加できない人びとを包摂すること
- (2) 国や民族、文化や宗教の違いを乗り越えて、開かれた公平な観察者を形成していくこと



いかにして「共感」の範囲を広げるか？

14

J. S. ミルの時代と生涯

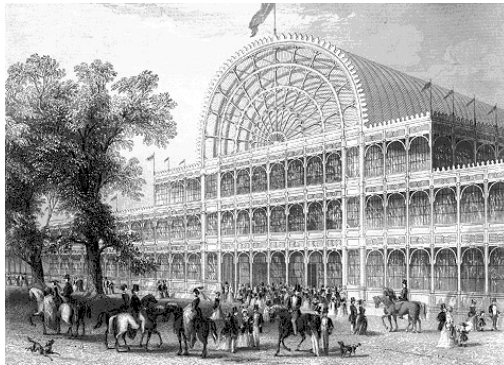


ミルの時代

1830 マンチェスター・リバプール間に鉄道開通
1832 第一次選挙法改正
1834 救貧法改正
1837 ビクトリア女王即位
1840 アヘン戦争
1844 銀行条例、金本位制の確立
1845 アイルランド大飢饉
1846 穀物法廃止
1848 ヨーロッパで革命起こる
1849 航海条例廃止
1851 ロンドン万国博覧会
1858 インド統治法通過
1867 第二次選挙法改正

ミルの生涯

1806 ロンドンで誕生
1809 父の厳格な教育
1823 東インド会社に入社
1826 精神の危機
1836 父死す
1848 『経済学原理』
1851 ハリエット・テラーと結婚
1854 母死す
1858 ハリエット・テラー死す
1859 『自由論』
1861 『代議制統治論』『功利主義論』
1869 『女性の解放』
1870 土地改革保有協会の設立
1873 フランスのアビニョンで死す



ロンドン万国博覧会(1851)



キング・コレラの王宮 (1852)
(『パンチ素描集』より)

A COURT FOR KING CHOLERA.

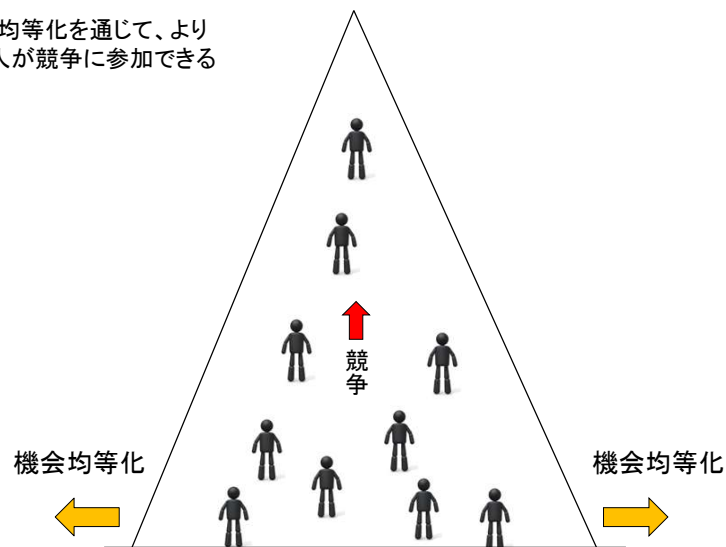
ミルが求めたもの：機会の均等化

- ・個人は、質の高い快楽を求めるべき
- ・社会は、個人が性格に応じて自由に快楽を追求できるよう、多様性を容認し、あらゆる人に諸活動の機会を開くべき（自由の原理）
- ・具体的な提案
 - 労働者のための教育の普及
 - 女性の政治参加
 - 相続税を用いた財産（スタートライン）の平等化
 - 社会主義的実験の奨励（例：生産協同組合）

17

ミルが構想した社会

機会の均等化を通じて、より多くの人が競争に参加できる社会



18

アマルティア・センの生涯

- 1933 ベンガル(現バングラデシュ)で、ヒンドゥー教の家庭に生まれる。ノーベル文学賞受賞者のタゴールから「永遠に生きる者」を意味する「アマルティア」の名を授けられる
- 1942 ベンガル大飢饉。小学校に錯乱状態になった人が入り死ぬのを目撃する
- 1947 東西パキスタンの独立に伴い、インドに移住する
- 1959 イギリスのケンブリッジ大学で博士号を取得
ケンブリッジ大学やハーバード大学などの教授を歴任
- 1998 経済倫理学の樹立に対してノーベル賞が授与される。賞金の一部を使って
パラチ・トラストを創設し、インドにおけるヘルス・ケアやジェンダー平等を
実現するために活動する
- 1999 インドの文民に与えられる最高栄誉賞「パールト・ラトナ」が与えられる



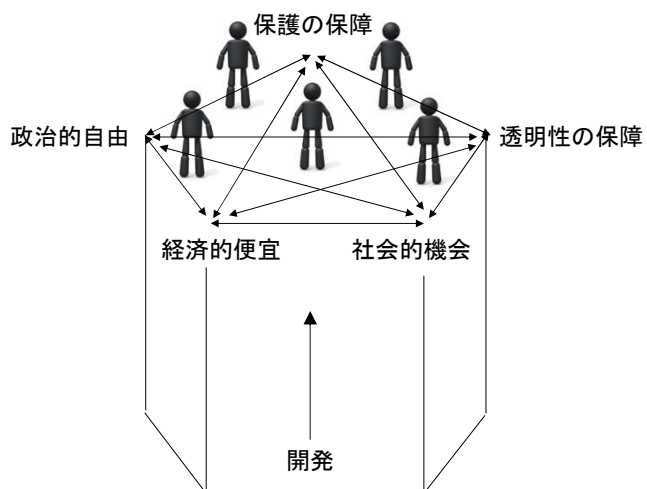
19

センが求めたもの: 人間開発

- ・個人は、自分のケーパビリティ(選択の幅)が最大になるよう、エージェント(積極的主体)として行動すべき
 - ・社会は、個人がエージェントとして行動できるよう、以下の「手段としての自由」を整備すべき
 - 経済的便宜 (物質的豊かさ)
 - 政治的自由 (政治への平等な参加)
 - 社会的機会 (開かれた教育や医療サービス等)
 - 透明性の保障 (情報への自由なアクセス)
 - 保護の保障 (危機管理の整備)
- 国連開発計画による人間開発指数(HDI)のランキング公表

20

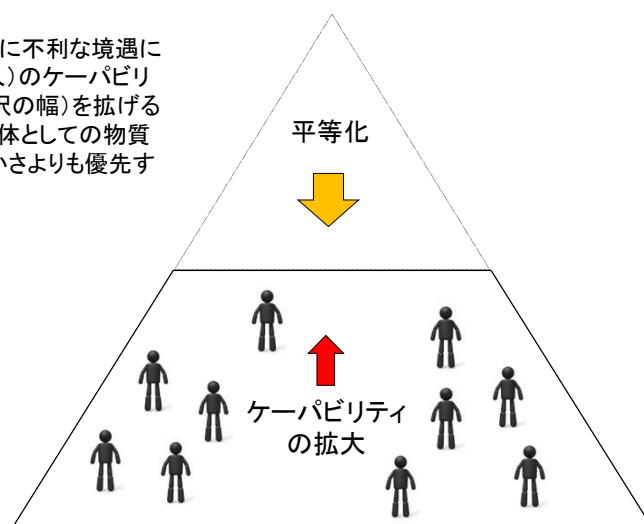
人間開発の手段としての諸自由



21

センが構想する社会

個人(特に不利な境遇にある個人)のケーパビリティ(選択の幅)を拡げること全体としての物質的な豊かさよりも優先する社会



22

バニエによる発想の転換

23

ジャン・バニエの生涯

- 1928 スイスのジュネーブに生まれる。
- 1942 イギリス、ダートマス海軍兵学校に入学。
- 1946 海軍兵学校を卒業し、戦艦に士官として乗船。
- 1950 海軍を辞める。パリで哲学と神学の自習を始める。
- 1962 論文「幸福 — アリストテレス倫理学の原理と目的」を書き、パリ・カトリック大学から博士号を取得。
- 1963 トロント大学に職を得る。友人の招きに応じ、パリ郊外の知的障がい者の施設を訪れる。
- 1964 トロント大学を辞職し、知的障がい者の施設を回る。パリ郊外の古家を買って障がいをもつ二人の男性と共同生活を始め、「ラルシュ(L'Arche)」（箱船）と名付ける。
- 1987 カナダ勲章を授与。
- 2015 宗教分野のノーベル賞と言われるテンプルトン賞を受賞。
- 2019 この世を去る。ラルシュは38カ国153施設に広がる。



24

バニエの考え方

- ・障がいを持たない人が持つ人を一方的に助けるというのではなく、障がいを持たない人が持つ人と共に生活し、彼ら彼女らの心の傷や友情の求めに向き合い、心を開くことによって、自分自身の心の壁をとり払うべき
- ・人間は誰もが過去に受けた心の傷や恐れを封じ込めるための壁を心に作って自分を守るとともに、傷や恐れを思い起こさせる他人を嫌い、遠ざけ、排除しようとしている
- ・人類が差別や暴力のない平和な社会に向かって進むためには、世の中から排除された人々に目を向け、接し、共に生き、友情を取り結んでいかなくてはならない
- ・心の壁を取り払わなくてはならないのは、排除された人々よりも、むしろ排除する人々である
- ・知的障がい者をはじめとする、世の中から排除されている人たちこそ、人間を解放し、社会の未来に貢献する「命の輝き」を持っている

25

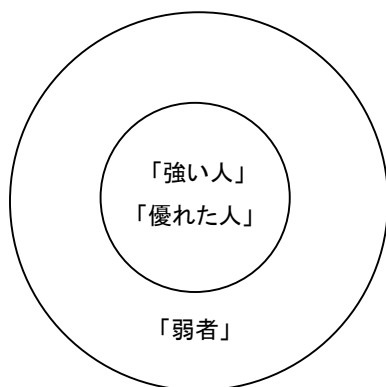
かなの家 (<https://larchejapankana.localinfo.jp/>)



26

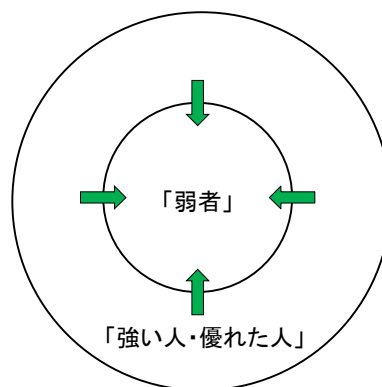
バニエによる発想の転換

経済学者の考え方



生産(命の手段)を
中心にした見方

バニエの考え方



命そのものを
中心にした見方

27

私が構想する「目指すべき社会」

- ・「弱者」と呼ばれる人びとを中心に置き、「強い人」、「優れた人」と呼ばれる人びとが「弱者」と向き合い、共感し、自身の中にある「弱さ」(心の壁)を認め、それから解放される社会。「弱者」、「強い人」、「優れた人」の区別が意味をなさない「命」中心の社会
- ・市場原理を活用した自由な生産、交換、消費によって、「命の手段」(財とサービス)が人びとに行き渡る社会



構想の場: 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI)

28

社会ソリューションイニシアティブ（SSI）について

29

SSIの理念

命を大切にし、一人一人が輝く社会

まもる：

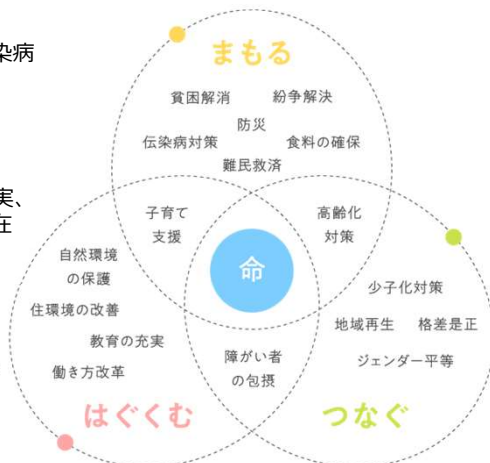
災害、戦争・紛争、犯罪、飢餓、貧困、伝染病などの脅威から、かけがえのない命を守る

はぐくむ：

自然環境の保護、住環境の改善、教育の充実、働き方の改善などを通じて、一人一人が潜在的に持っている能力を見出し、伸ばす

つなぐ：

共感によって人と人との絆を深め、広げる。過去、現在、未来へと命をつなぐ

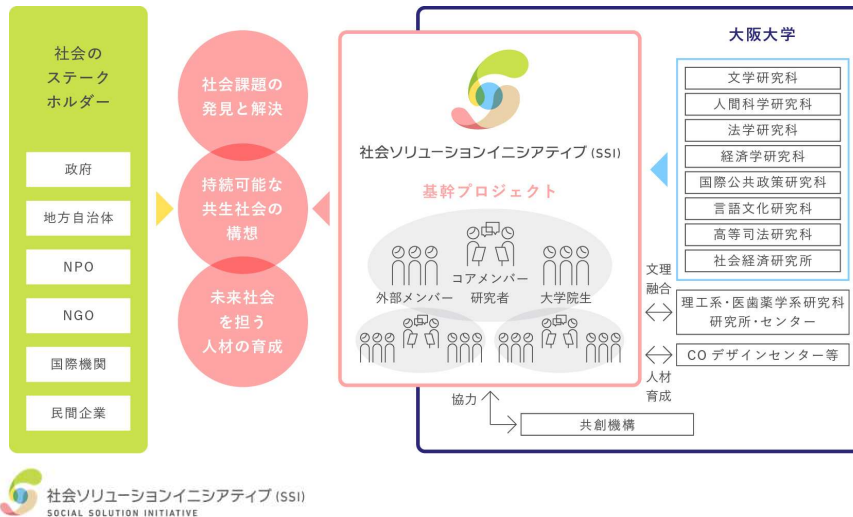


社会ソリューションイニシアティブ (SSI)
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE

30

SSIの特徴

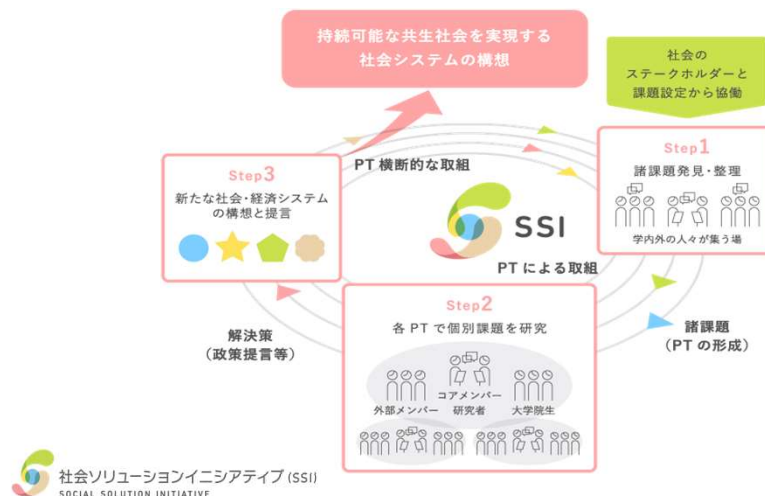
2050を視野に諸課題の解決策を提案するシンクタンク。
大阪大学の人文社会科学系研究者を中心に2018年1月に設置



31

SSIのアプローチ（取組方法）

- (Step 1) 学内外の人々が集い、社会課題を発見・整理する
- (Step 2) 発見・整理された課題ごとにプロジェクトを形成
- (Step 3) 未来にむけて新たな社会・経済システムを提案



32

SSIサロン (Step 1) (2018~19年度)

- 第1回「生と死と、命と - 超高齢社会の多様性」 (6/25)
- 第2回「科学技術と地域資源のコラボレーション - 支え合いの仕組みを考える」 (7/18)
- 第3回「国家とは、人間とは - 紛争解決は何をめざすのか」 (9/20)
- 第4回「科学技術と人間
- 未来社会に向けた文理融合のあり方」 (11/1)
- 第5回「SDGsとどう向き合うか
- 30年後の社会を見据えて」 (1/15)
- 第6回「社会の鏡 - こどもが与えてくれるもの」 (5/23)
- 第7回「『障がい』はどこにあるのか
- ジャン・バニエの思想と実践」 (7/25)
- 第8回「センス・オブ・ワンダーと社会 - 研究はどこから生まれどこへ向かうのか」 (9/26)
- 第9回「アフリカ - 未来社会」 (11/21)



33

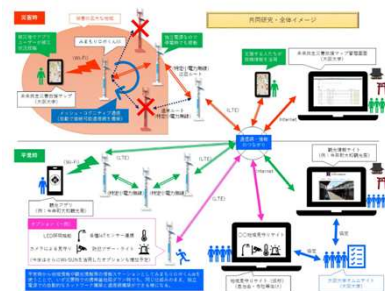
各種プロジェクト (Step 2)

○基幹プロジェクト

- 「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」
- 「教育の効果測定研究」
- 「共生対話の構築」
- 「SDGs指標の改善を通じた環境サステナビリティの促進」
- 「一人ひとりの死生観と健康自律を支える超高齢社会の創生」
- 「健康・医療のための行動科学によるシステム構築」
- 「アフリカの非正規市街地をフィールドとした持続型都市社会モデルの構築」
- 「社会課題を解決するためのコミュニケーション能力の開発」

○協カプロジェクト

- 「東南アジアと日本における持続的な食料生産と消費の構築」



34

SDGsに対するSSIの基本方針（Step 3）

SDGs

「命を大切にし、一人一人が輝く社会」にいたるための重要な道標

17のゴールを、命を「まもる」「はぐくむ」「つなぐ」に結びつけ、何のためのゴールなのか、達成の先にどのような社会を構築するのかを考える



SDGsに関する取組み（Step 3）（2018年度）

○ 3月30日、関西SDGsプラットフォームへの参画

大阪大学として関西SDGsプラットフォームに参画。2018年3月30日に大阪市・中之島会館にて開催されたシンポジウム「未来社会の姿と今わたしたちにできることを考える」にSSI長がパネリストとして参加

○ 7月16日、国連本部でのハイレベル政治フォーラム

持続可能な開発に関するハイレベル政治フォーラムにSSIの活動等に関するパネルを出展。SSIから中内政貴准教授（国際公共政策研究科）を派遣し、各国代表部等と意見交換

○ 11月17日、関西SDGsプラットフォームの「まなぼう！SDGs」のブースにパネル出展

11月17日、大阪大学共創機構主催のイベント「大阪大学共創DAY@EXPOCITY」が開催され、関西SDGsプラットフォームのブース「まなぼう！SDGs」にSSIがパネル出展し、大阪府と共同で来場者に対しSDGsについてPR

○ 12月6日～8日、「エコプロ2018 SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」

12月6～8日開催の「エコプロ2018 SDGs時代の環境と社会、そして未来へ」（日経新聞社主催）の関西SDGsプラットフォームのブースにパネルを出展し、SSIの取り組み等について説明した。ブース来場者は約500名（全体では約16万人）



エコプロ2018
関西SDGsプラットフォーム出展ブース

2019年度の取組（これまで）

○ 6月5日 学生のつどい Co-Leading Next Society 「未来を構想する方法を学ぼう」を開催

大阪大学SSIとして、はじめての学生への場の提供。学生30名と未来新聞の森内真也氏、SSI長望目卓生教授を含め37名が集い、未来を担う学生たちと楽しく、深く対話

○ 6月25日 MISIA講演による「アフリカをもっと身近に アフリカにもっとワクワクする」を阪大で共催

アフリカ開発会議（TICAD 7：8月29日～31日）が開催される機会を踏まえ、長年アフリカで子供たちを中心に支援を続けてきた歌手のMISAさんとJICAによる協働企画をSSIの共催で実現

○ 8月4日 SSI基幹プロジェクト 「健康・医療のための行動科学によるシステム構築」 キックオフ・シンポジウムを開催

大阪大学中之島センターにて「医療現場の行動経済学入門」をテーマに開催。多方面から興味深い講演がなされ、医療関係の方を中心に90名以上が参加

○ 9月20日 「SSI車座の会」第1回会合を開催

あるべき30年後の経済社会を求めて企業やNPOの方のつどい場として開催。SSIの理念に共感し、自分の組織、自分の業界、そして社会を変革する意欲のある9社11名が参加



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE



39

2019年度の諸計画

新規プロジェクトの立ち上げ

- ・ こどもの居場所
- ・ 海外における先導的取組事例の収集 e.t.c

将来に向けた人材育成の促進

文部科学省「地域課題に対応するコミュニケーションの推進事業」に「社会ソリューションコミュニケーターの育成」が採択

第2回SSIシンポジウム

「命への責任 - 新しい企業像を求めて」
2020年3月11日（水）15時～18時30分/大阪大学会館
基調講演 野中郁次郎氏（一橋大学名誉教授）
黒田章裕氏（コクヨ会長）



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE

40

SSIは
2050年を視野に入れ
「命を大切にし、一人一人が輝く社会」を目指して
人と人との出会いの場、交流の場を多様な形で提供し
結束力の強いプロジェクトを立ち上げ
社会課題への取組を粘り強く推進していきます

<http://www.ssi.osaka-u.ac.jp/>
ssi@ml.office.osaka-u.ac.jp



社会ソリューションイニシアティブ (SSI)
SOCIAL SOLUTION INITIATIVE

41

結論：私たちが為すべきこと

目指すべき社会を構想する



日本社会およびグローバル社会において、何が課題か、
その課題の解決のためには何が必要か、あるいは何が
できるかを考える



与えられた場において、仲間を作り、実験し、行動する

42

参考文献

- スミス『道徳感情論』(1759)、水田洋訳、岩波文庫、2003年
- スミス『国富論』(1776)、杉山忠平訳、水田洋監訳、岩波文庫、2000-2001年
- ミル『ミル自伝』(1873)、朱牟田夏雄訳、岩波文庫、1960年
- ミル『自由論』(1859)、塩尻・木村訳、岩波文庫、1971年
- セン『アイデンティティと暴力』(2006)、大門毅監訳、勁草書房、2011年
- セン『正義のアイデア』(2009)、池本幸生訳、明石書店、2011年
- バニエ『人間になる』(2001) 浅野幸治訳、新教出版社、2005年
- バニエ『ジャン・バニエの言葉』、浅野幸治訳、新教出版社、2012年
- 堂目卓生『アダム・スミス』、中央公論新社、2008年